

お詫びと訂正

2026 年版 大学赤本シリーズ No. 482『関西大学（文系）』におきまして、内容の一部に誤りがございました。訂正箇所をお知らせいたしますとともに、謹んでお詫び申し上げます。

教学社編集部

記

2025 年度 p. 112 全学日程：2月1日実施分 解答編 英語 大問Ⅲ

B (6) 誤 C 正 B

解説

最終段では「栄養という観点から肉は必要なのか」という問題が取り上げられている。第2・3文（As nutritionist…proteins.）で述べられている肉を食べないアスリートの存在は、栄養学的には肉食が不要であることを示すための事例である。第4文（Kindler, …）では一般論として「味覚と食料源は…進化・本能の問題というよりも、社会（＝文化）の問題」と述べられている。つまり肉食は栄養面・身体面において必要なことではなく、社会的・文化的に重要なのだということである。最終段で間接的に述べているのは、「肉食は栄養的・身体的な観点からは必要なものではない。肉食が重要だとしたらそれは文化的・社会的な観点からのものにしかすぎない」ということである。この内容に一致するのはB。「肉食は健康のためというよりも習慣として重要である」である。

2025 年度 p. 294 全学日程：2月6日実施分 解答編 地理 大問 I

問4 (2) 誤 (オ) 正 (ウ)

解説

(ウ)が不適當。衛星画像では、ある時点での地上や海上の施設の被災状況などはわかるが、斜面崩壊の発生回数は計測できない。

以上